

「飯島町の農業・農村の活性化」を目指して



飯島町は長野県の南部、西は中央アルプス、東は南アルプスに囲まれた「ふたつのアルプスが見えるまち」として伊那谷随一の景色を有しています。また、日本の原風景ともいえる農地や景観、高い生産技術、郷土食や農村の文化など多くの資産を持っています。

現在、我が国は人口減少や少子高齢化の進行などにより、右肩上がりの経済成長や人口の増加を前提とした社会構造は通用し難くなるなかで、新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に世界中に拡大しました。多くの人命が失われ、都市の封鎖や人の移動が制限された結果、経済活動は停滞し、景気はリーマンショック以来の極めて厳しい状況にあります。ワクチンの開発等により本感染症を完全に制御できる状況となるまでの間、感染拡大防止と社会経済活動を拡大し町民の生活を支える基盤づくりが重要です。さらには、急速に進行しているAIやICT等を活用した社会の実現を目指した取り組みも急加速しています。

このように、私たちを取り巻く環境が加速度的に変化するなか、迎え来る時代にふさわしい社会を創造していくことが求められています。

そして、私たちが豊かで幸せに暮らすことのできる社会を創っていくためには、飯島町に受け継がれてきたDNAである組織力を活性化することが重要です。

以上のような認識のもと、策定した飯島町第6次総合計画における農業・農村振興の具体的な取り組みについて、多くの皆様との検討を重ね、飯島町農業農村振興計画「地域複合営農への道パートⅤ」を策定しました。

本計画は、飯島町の農業・農村の将来のめざす姿を明確にし、「ふたつのアルプスに育まれ自然環境と共生する農業と農村」を基本目標に、飯島町農業を担う次世代に、農地や技術、郷土の文化や景観などを確実に繋ぎ、飯島町農業・農村の発展と魅力向上を図るための施策を総合的かつ計画的に推進する実践計画を示したものです。

町民の皆様の生活に大きく関わりを持っている農業・農村を、農業者の皆様をはじめとする全ての町民の皆様一人ひとりの高い意識によって維持・発展し、幸せを感じて暮らせる飯島町を目指して共に取り組んでいきましょう。

おわりに、現在まで35年に亘り、町の農業振興の中核としてご苦勞頂き、この計画の策定にご尽力頂いた、飯島町営農センター委員並びに関係者の皆様方に厚く御礼を申し上げますと共に、今後の町農業と農村の発展のため、一層のお力添えをお願い申し上げます、挨拶と致します。

令和3年3月

飯島町長 下平洋一

地域複合営農で元気な飯島町農業をめざして



飯島町営農センターは、昭和 61 年 9 月(1986 年)発足以来 35 周年を迎えました。この間、営農センターでは、町の農業農村振興計である「地域複合営農への道」の基本理念に基づく実践活動を積み重ね、町の農業振興を進めてまいりました。特に、地区営農組合と担い手法人との連携による 2 階建方式は、飯島方式とも呼ばれ、全国のモデルとなってきました。

農業団体、農業関係者をはじめ、多くの方々に参画いただき、『協働の力で「自然・環境と共生した競争力のある農業の育成」と「いごごちのいい町づくり』を基本とした「地域複合営農への道パートⅣ」を平成 24 年 4 月に策定し、10 年が経過しました。この間、国では、

T P P・規制緩和・農政改革・農協改革・生産調整への国の関与廃止などの政策要因、国際化・多面的機能の重視・国家の安全保障などの経済要因、高齢化・少子化・多様化などの社会要因が大きく変化しました。さらに、令和元(2019)年 12 月に中国で確認された新型コロナウイルスは、世界各地に拡大し我が国においても未だに感染が拡大しており、国内における感染拡大を踏まえた学校等の臨時休業やイベント等の自粛、入国制限等により、国産農林水産物の需要減少や生産現場における労働力不足等の課題に直面しています。このため、政府は、農林漁業者等の資金繰り支援など緊急対応策を打ち出すとともに、農林水産省では、国民への食料の安定供給を確保する観点から、生産者や食品産業事業者等の事業継続に関するガイドラインの策定、食料品の供給状況等に関する国民への情報発信等を実施しました。また、緊急経済対策の中で、生産基盤の維持・継続と需要の喚起のための対策を盛り込みました。営農センターを設立してから、かつて経験したことのない困難な課題に直面しています。

当町農業の現状を見ると、農業産出額がピークの平成 3 年対比で 42%減少し、農業従事者や経営耕地面積の減少についても歯止めがかからず、農業の中核を担う認定農業者の減少・高齢化が進展するなど危機的な状況にあります。向こう 10 年を見たアンケートでも、10 年後の経営意向は規模を縮小または農業を廃止したいが 59.2%を占めました、その理由の 48.5%が高齢化によりできないというものでした。

町においては、令和 3 年度から「第 6 次飯島町総合計画」が動き出し、世界共通の目標である「SDGs(持続可能な開発目標)」の理念を組み入れています。

こうした課題や情勢に対応し、飯島町の農業と農村を振興するため、「地域複合営農への道パートⅤ」を策定いたしました。

協働の力で「ふたつのアルプスに生まれ自然環境と共生する農業と農村」を基本目標に「儲かる農業と豊かな食生活、幸せに暮らせる地域づくり」の実現に向けて、全農業者の参加による地域営農の推進と、全町民の理解と参加による農村環境の保全に努めた取り組みを進めてまいります。全農家の皆さまをはじめ、全町民の皆さまのご理解とご参加をお願いし、挨拶いたします。

令和 3 年 3 月

飯島町営農センター
会長 竹澤 秀 幸

地域複合営農への道パートV 目次

第1章 計画策定の基本的な考え方	7
1 地域複合営農への道策定経緯	
2 計画の性格と役割	
3 計画の期間	
4 計画の進行管理	
5 町民の参画と協働による計画の推進	
6 新型コロナウイルス感染症と新しい生活様式	
第2章 農業・農村をめぐる情勢	11
1 食と農業・農村を取巻く社会情勢の変化	13
1) 国際化の進展	
2) 人口減少と高齢化、集落に占める農家割合の減少	
3) 農家数の減少と担い手への農地集積の急増	
4) 大規模農家と小規模農家への二極化と土地持ち非耕作農家の増加	
5) 集落機能の低下が懸念	
6) 農業・農村に対する意識の変化	
7) 食の安全・安心に対する意識	
8) 環境問題に対する意識	
9) S D G s (持続可能な開発目標) への取組	
10) 地球温暖化への対応	
11) ライフスタイルの多様化による食の変化	
12) 食と農の連携	
2 飯島町農業の特徴	16
1) 組織が支える農業	
2) 地域複合営農	
3) 1000ヘクタール自然共生農場づくり	
4) 地産地消・都市交流・活性化対策	
5) 補助事業による農業基盤整備	
6) 水稲転作をブロックローテーションにより実施	
7) 地図情報システムの活用	
第3章 飯島町農業の現状と課題	19
1 統計からみる10年後の農業の姿	21
2 農業構造の変化	24
3 組織営農の功罪	24
4 農業の担い手育成と農業労働力の確保	24
5 環境問題に対する意識の変化と多面的機能の維持	25
6 農業所得の低下と農業離れ	25
7 地産地消の推進と豊かな食生活の実践	26
8 食と農の連携による地域産業の創出	27
9 農村の生産・生活環境基盤の維持・管理	27

第4章 基本目標と施策の展開	29
1 基本目標	31
2 飯島町が目指す地域複合営農	31
1) 地域複合営農への道とは	
2) 地域複合営農の地域とは	
3) 地域複合営農の複合とは	
4) 役割の明確化	
3 飯島町農業・農村の将来像	32
1) 農業の将来像	
2) 目指す食のあり方	
3) 農村の将来像	
4 施策の基本方向	34
5 緊急に実施が求められる重要施策	36
第1節 1000ヘクタール環境共生農場づくり	38
第2節 農村機能と農村環境の維持組織を育成し農村環境を保全	41
第3節 人と自然が共生する美しい町づくり	45
第4節 個性ある産地づくり	48
第5節 組織営農体制の強化	50
第6節 農業を担う経営体の育成	53
第7節 農地の有効利用と作業分業体制の確立	55
第8節 作業の効率化とコストダウン	57
第9節 情報化の推進	58
第5章 作物別の振興方針と経営類型	61
1 作物別の振興方針	63
1) 土地利用型作物（米・麦・そば・大豆）	
2) 花き	
3) 果樹	
4) きのこと	
5) 野菜	
6) 畜産	
7) 水産	
2 目指すべき経営類型	91
3 地区ごとの農業振興方針	99
1) 飯島地区	
2) 田切地区	
3) 本郷地区	
4) 七久保地区	

第6章 重点的に取り組む事項	101
1 次代へつなぐ飯島町農業	103
1) 地域複合営農システムの維持・発展	
2) 新規就農者等次代を担う経営体の確保・育成	
3) 消費者に信頼される農畜産物の生産	
4) 自然環境を活かした園芸作物の生産	
2 消費者とつながる食と地産地消の拡大	105
3 人と人がつながる農村	106
第7章 他分野と連携により地域一体で進める事項	107
1 観光事業者と連携したグリーンツーリズム	109
2 農産物を活かした6次産業	110
3 地域資源の発信の強化	112
4 教育分野と連携した農業体験	113
5 福祉分野と連携した障がい者雇用・高齢者の生きがい対策	114
第8章 重点事業の推進モデル	117
1 地区営農組合の充実	119
2 アグリイノベーション 2030	120
3 棚田を核とした地域振興（日曾利地区ほ場整備事業）	121
4 水田フル活用ビジョンの実質化	122
5 1000ヘクタール環境共生農場	123
6 環境共生栽培米の定着と地産地消	124
7 加工用米の需要に応じた生産	125
8 果樹産地の維持から拡大へ	126
9 栗の里づくり	127
10 新鉄砲ゆりの産地復活	128
11 少量多品種野菜の栽培	129
12 地域資源の保全活動	130
第9章 関係資料	131
1 地域複合営農への道パートIV実績と評価	133
2 アンケート調査用紙	149
1) 農家用	
2) 非農家用	
3 アンケート調査結果	187
1) 農家単純集計	
2) 非農家単純集計	
3) 農家クロス集計・地区別	
4) アンケートから10年後を見る	

4	数字で見る飯島町農業（農林業センサス）	208
5	飯島町営農センターのあしどり	219
6	飯島町営農センターの機構体系図	223
7	飯島町営農センター設置規則	224
8	飯島町営農センター幹事会の組織及び運営に関する規則	228
9	飯島町農業再生協議会規約	230
10	飯島町認定農業者制度	238
11	飯島町環境共生栽培農産物認証要綱	240
12	歴代営農センター委員・地区営農組合役員・幹事名簿	251
13	用語説明	261